

滋賀県立美術館整備基本計画 (骨子)

令和7年3月
文化スポーツ部
文化芸術振興課・県立美術館

目 次

1	美術館整備の経緯	3
2	計画策定の目的	4
3	「未来をひらく美術館」へ	5
4	私たちの考える整備の方向性	7
5	令和6年度の主な取組状況	8
	(1) 意見・ニーズ把握	
	(2) 部局横断的な情報共有・検討	
	(3) 整備における技術的要件の検証	
	(4) 公園と一体となった魅力向上策の検証	
6	県立美術館の主な課題	13
	(1)ワークショップルーム、キッズスペース (2)ギャラリー (3)展示室	
	(4)収蔵庫 (5)既存施設の老朽化	
7	計画の構成、掲載項目案	18

1 美術館整備の経緯

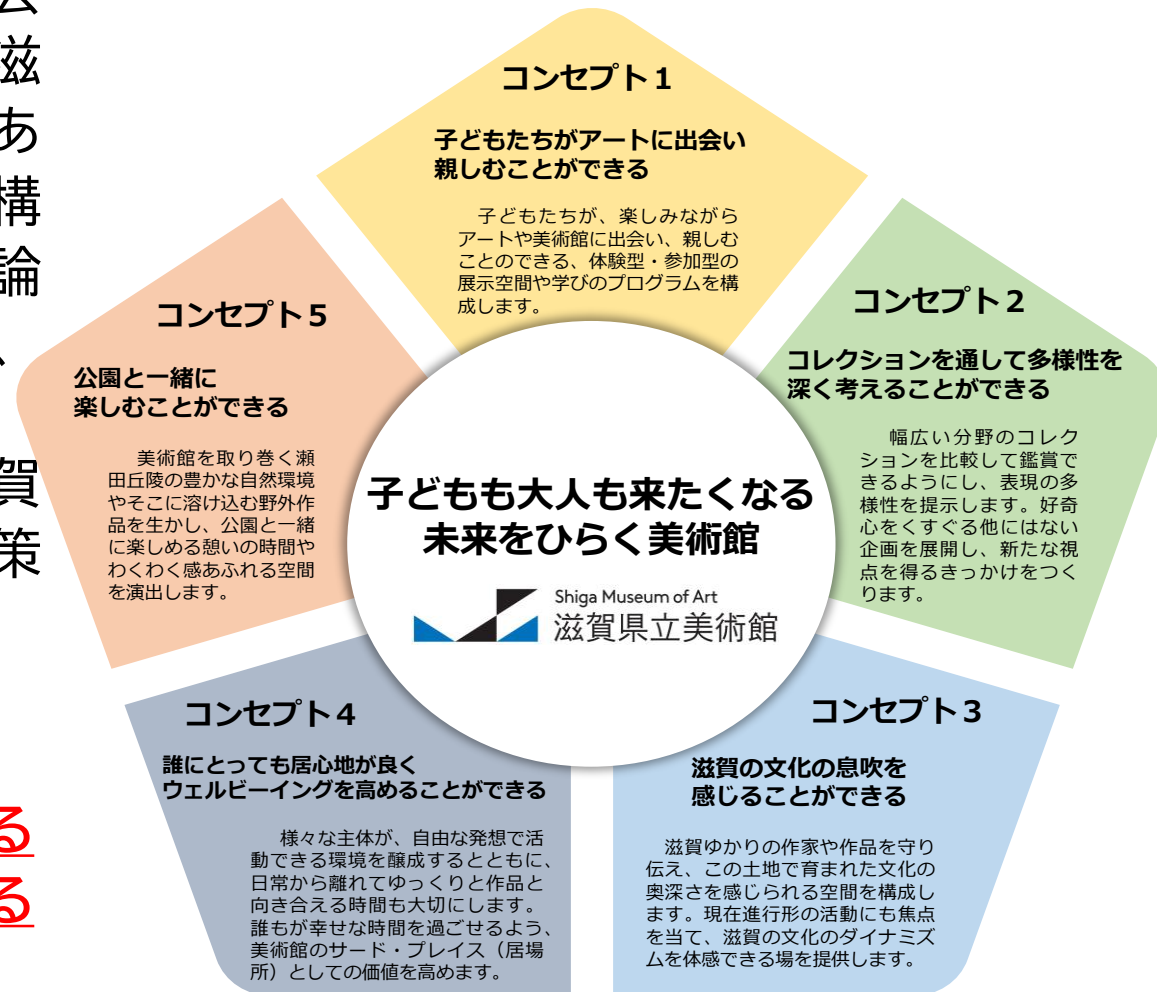
時期	事 項	概 要	整備計画の内容			
			施設設備 老朽化対応	展示室・収蔵庫 狭あい化対応	美術館 機能充実	文化館機能継承 (仏教美術等)
平成 25年	「新生美術館基本計画」 策定	美術館の老朽化・狭あい化等課題対応と休館中の琵琶湖文化館の機能を継承するための改修・増築を行う整備計画を策定	既存施設・設備 の大幅改修	展示室・収蔵庫の 拡張(増築)	公園整備 (一部は平成29年に実施)	文化財に対応した展示室・収蔵庫の整備
平成 29年	美術館休館 建築工事入札不落	4月に工事準備のため美術館は休館に入ったが、8月に実施した入札不落を契機に、整備を立ち止まり対応方針の検討を行う				
平成 30年	美術館の老朽化対策工事を先行させ、早期の再開館を目指す旨を表明					
令和 元年	琵琶湖文化館単独整備を表明					(単独整備へ)
令和 2年	美術館老朽化対策工事 着手	早期の再開館に必要な喫緊の課題である安全対策を中心とした老朽化対策のみの改修工事を実施(～令和3年、約12億円)	一部改修工事(消火設備・耐震・防水対策・トイレ・展示室内装等)実施	(未対応)		
令和 3年	「美の魅力発信プラン」 策定	3月に美術館と新たに整備する琵琶湖文化館を核として滋賀の美の魅力を発信する全体計画「美の魅力発信プラン」を策定	施設機能の向上について 今後検討を要する事項として記載			
	美術館再開館	6月に喫緊の課題対応の老朽化対策改修工事を終え約4年ぶりに美術館再開館			ロビー周辺の内装刷新、キッズスペース設置等	
令和 5年	長寿命化改修工事	施設長寿命化計画に基づく改修	屋根・作品用エレベーター等改修			
令和 6年	「美の魅力発信プラン」 中間見直し 「美術館魅力向上ビジョン」 策定	「美の魅力発信プラン」3年目の中間見直しに合わせて、積み残しとなっている美術館の施設機能や面積の課題に対応するとともに、ソフト・ハードを含めた機能向上の方向性を整理し、3月にビジョンとしてとりまとめ				
	「美術館整備基本計画」 策定着手	5月に「美術館魅力向上ビジョン」を実現するための施設整備等の計画策定に着手し令和7年度内に策定予定 課題への対応と将来を見据えた機能充実に向けた整備内容の検討を行っている	空調設備等改修	展示室・収蔵庫の 拡張(増築)	キッズギャラリー・ギャラリー(貸出)・公園整備等	

2 計画策定の目的

- 県立美術館では、美術館が抱える様々な課題や美術館を取り巻く社会情勢の変化に対応するとともに、滋賀の美の魅力を発信する存在感のある施設となるため、外部有識者で構成した美術館魅力向上部会での議論（令和5年7月～12月）を踏まえ、美術館の新たな方向性について調査・検討し、令和6年3月に「**滋賀県立美術館魅力向上ビジョン**」を策定しました。
- 本基本計画は、**ビジョンで掲げた方向性を実現するため、県立美術館の施設整備に係る具体的な計画**を定めるものです。

滋賀県立美術館魅力向上ビジョン

目指す姿



3 「未来をひらく美術館」へ



アートに親しむきっかけや
美術館のシンボルとなるような
野外作品

気軽にアートと出会える機会の創造

キッズギャラリー

子どもが遊びながらアートに親しめる
体験型・参加型の展示空間など

いつでも自主的・自発的に参加できる「遊んで学べる場」を
作家やデザイナーの協力を得ながらプロデュース

誰もが公園と一緒に楽しめる、
わくわく感のあるアクセスルート

緑豊かな公園とのつながり・連携を深め
公園と一体的に付加価値を向上

県民共有の資産である作品
の保管が円滑に進められる収蔵庫

子どもも大人も来なくなる

Shiga Museum of Art
滋賀県立美術館

未来をひらく美術館 へ

県内外から多くの方に何度も来ていただける存在に

誰にとっても居心地が良く、
様々な方へつながる・寄り添う

社会的処方取組など、個人や
社会のウェルビーイングの向上
に資する取組を実施

県民をはじめとする皆さんに愛用して
いただける、創作活動の発表などの場

長期にわたり安定的な運営
を行うための施設・設備

多様な作品をゆったりと
十分に鑑賞できる展示空間

アール・ブリュット、現代美術、日本画、
滋賀ゆかりの美術などのコレクションを生
かした他にはない展示の展開・発信

滋賀県立美術館は、若手アーティストの登竜門であると同時に、キッズギャラリーとウェルビーイングの分野における日本のリーディングミュージアムとなることをめざします。

わくわくするアプローチ



アプローチを変更し、公園との一体化をより強化します。

定期的に内容が変わるキッズギャラリー



パリのボンビドー・センターが実施している子どものためのアートスペースなどを参考に、子どもの想像力が刺激されるプログラムを開発、実践します。

野外をもっと楽しく



カラフルな作品や女性のアーティストによる作品を増やします。

特徴ある現代美術ウィング →滋賀ゆかりの作品も常設



現代美術作品は、欧米では今やスタンダードになっている、外光の入る展示室に。既存の展示室は滋賀ゆかりの作家をしっかりと常設するスペースになります。

研究機能の強化 →国際的ネットワーク



コレクションを特徴づけるアール・ブリュットは日本の研究拠点となることで国際的なネットワークを構築します。

対話鑑賞 →外部連携の活性化



分析力と言語化の力を養うことのできる対話鑑賞のプログラムを基軸にして、学校や企業との連携を活性化。外部資金の獲得にもつなげていきます。

多様な鑑賞方法の実践 →ウェルビーイングの向上



障害のある人や高齢者をはじめとする社会的に孤立しやすい人たちに寄り添うプログラムを開発することで、ウェルビーイングの向上に資する文化機関に。

4 私たちの考える整備の方向性

・滋賀県立美術館魅力向上ビジョンで掲げた「子どもも大人も来たくなる 未来をひらく美術館」を実現するため、現状課題と今年度実施した調査研究や対話の結果等を踏まえ、以下の方向性で引き続き詳細について整理・検討を進めます。

既存館の改修

課題の解決

増 築

利便性の向上

県民の資産である
コレクションの活用

公園と一体 となった整備

ポテンシャルをいかす

子どもがアートに親しめる 環境整備

子ども・子ども・子ども

幅広い層へのアプローチ

※詳細の内容・規模について引き続き整理・検討

5 令和6年度の主な取組状況

(1) 意見・ニーズ把握

対象者	主な質問項目	実施時期	実施方法	共同研究者
県政モニター	- 美術館の利用状況 - 美術館を利用しない理由 - 美術館に必要な機能・取組	令和6年9月	・しがネット受付サービス	—
ギャラリー使用者 県域文化活動団体（展示活動を行う団体に限る）	- 美術館ギャラリーの使用理由 - 美術館ギャラリーの満足度 - 要望 など	令和6年10月	- メール調査 - 郵送調査	—
美術館ステイクホルダー	- 美術館の活動に対する認識 - 美術館との連携可能性 - 要望 など	令和6年9月～	・対面・WEB会議によるインタビュー	北海道大学 博物館学研究室
立命館大学びわこくさつキャンパス学生	- 美術館・公園の利用状況 - 美術館へのアクセス状況の認識 - 美術館への交通手段 - 公園内施設の相互利用 - 要望 など	令和6年7月	・二次元コードによるWEB回答	立命館大学 阿部俊彦研究室
龍谷大学瀬田キャンパス学生		令和6年12月～		
東大津高校生		令和6年12月～7年1月		
滋賀医科大学学生		令和7年1月～		
美術館利用者	- 来館者・来園者の属性 - 来館・来園目的 - 美術館・公園満足度 - 美術館・公園への来訪ルート - 公園の課題認識 - 公園内各施設の印象 - 公園内各施設の相互利用状況 - 要望 など	1回目： 令和6年8月2日(金) ～8月8日(木)	・対面調査 (エントランス内に ブース設置)	立命館大学 阿部俊彦研究室
公園利用者		2回目： 令和6年11月12日(火) ～11月17日(日)	・対面調査 (園路を巡回)	

5(1)関連 美術館利用者、公園利用者アンケート調査

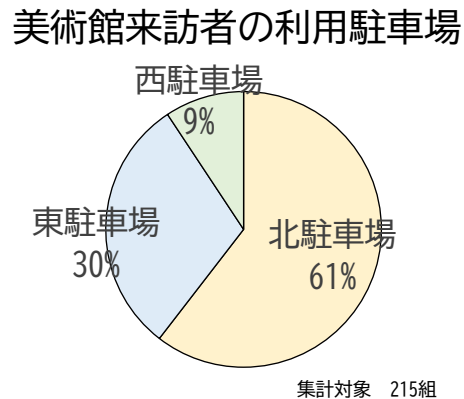
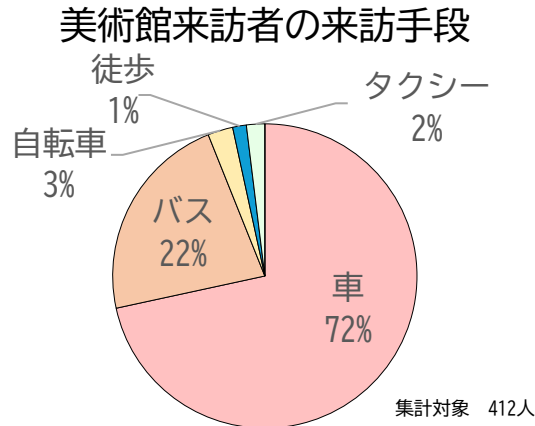
(立命館大学阿部俊彦研究室との共同研究)

公園や美術館へのアクセス、相互利用施設、公園の課題を把握するためのアンケート調査を実施

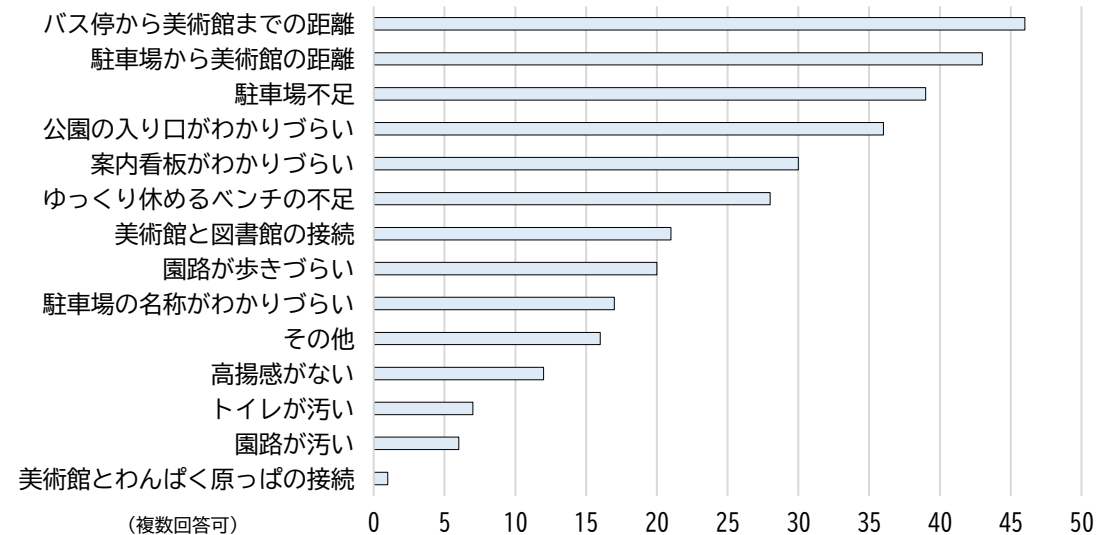
調査結果（一部）



エントランスにブースを設け、調査を実施
(園路を巡回して行う調査も別途実施)



利用者の公園に対する課題認識



「その他」の主な意見

- ・駅や滋賀県の中心地からのアクセスが悪い
- ・もう少し飲食の場が欲しい
- ・園路の傾斜がしんどい
- ・車いすの人でも散策しやすいように

(2) 部局横断的な情報共有・検討

庁内整備検討チーム会議の設置

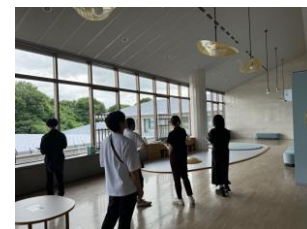
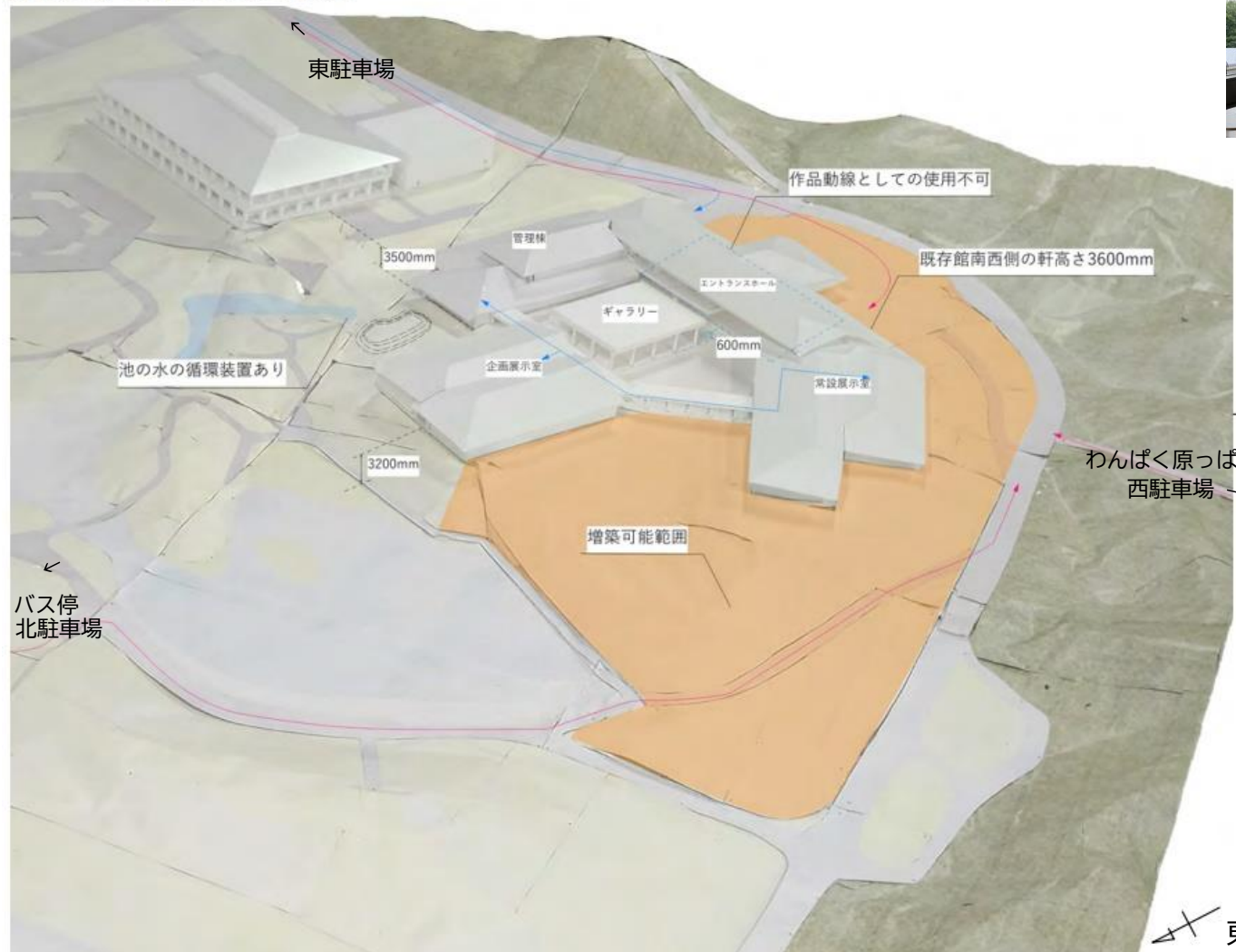
(令和6年5月設置)

(構成所属：企画調整課、文化芸術振興課、美術館、文化財保護課、都市計画課、生涯学習課、図書館)

(3) 整備における技術的要件の検証

建物・周辺の現状調査、および模型を用いて学生と学芸員をはじめとした館職員がともに来館者や作品の動線をはじめとした運営上の諸課題を検証しながら、増築可能範囲などの整備にかかる技術的要件を検証

既存建物の改修における課題



現状調査



模型を用いて利便性を検証

公園全体の動線： 

美術館・図書館ともに正面エントランスが南側にある一方で、バス停が北側、駐車場が南西のわんぱく原っぱの奥、北側、東側の三か所にあり、利用者が美術館に入館するまでの公園内での動線が長い。

既存作品動線： 

既存エントランスホールの床レベルが展示室より600mm高く、その間がスロープで結ばれている。これにより、スロープ部分およびエントランス部分は作品の動線として利用できない。現在は北西側の回廊を通して作品の移動を行っている。

増築可能範囲： 

図書館と美術館の間には3m程度のレベル差があり、増築は難しい。既存館北東には公園の池の水を循環させる装置が設置されており、造成を伴う増築は現実的ではないため、増築可能範囲は既存館南側と北西側に限定される。



(4) 公園と一体となった魅力向上策の検証

ア 今後の検討ポイント

コンセプト5

公園と一帯に
楽しむことができる

図書館と美術館との接続

隣接しているものの、植栽や園路の整備状況により、それぞれの入口が孤立し、相互の行き来を促す環境が整っていない。



図書館・六角広場周辺の看板

複数の看板が乱立し、かえってわかりづらくなっており、また景観面にも良くない状態になっている。



バス停

バスの便が減り最大30分の時間間隔があるが、屋根のついていないベンチがあるだけで、寒熱雨風をしのぐことができない。



北駐車場

車で来館者の半数以上が利用するが、美術館までのアクセッスルートが複数あり、回り込む形となるため、迷われる方が多い。



夕照の庭の看板

看板の図の方位（南向き）と実際に看板を見ている時の方位（東向き）が異なり、分かりにくい。



美術館とわんぱく原っぱとの接続

・子連れで賑わう「わんぱく原っぱ」は西駐車場からの単一利用が多く、林を隔ててすぐ先の美術館との相互利用が少ない。



ワークーションベンチと彫刻の路

・屋外彫刻作品が設置されているが、認知度が低く、親しんでもらえていない。また、作品が開館初期のもの（加えて全て男性作家）でアップデートされていない。
・ワークーションベンチ・屋外彫刻作品ともに孤立



夕照の庭西側の園路

・歩きにくい石畳や傾斜があり、落ち葉も相まって足を取られやすい。車いす等も通行困難。



イ 美術館入口位置の検証

南側のみ（現状）



〈メリット〉

- 公園内施設の正面入口が南側の園路に接するように統一
- 出入口が1か所であるため、入退館管理が効率的

〈デメリット〉

- 利用者の多い北駐車場・バス停から入口までが遠く、回り込む形となっており、アクセスが悪い
- 「公園の中のリビングルーム」のような活用があまり達成されていない
- 屋外彫刻作品などが孤立

北側にも追加



〈メリット〉

- 北駐車場・バス停からの距離を短縮でき、アクセスルートが明確になる
- 夕照の庭（日本庭園）や彫刻の庭（屋外彫刻作品）を取り込んだ美術館へのアプローチにより、公園との親和性を高め、より「公園の中のリビングルーム」としての活用を誘導することができる。

〈デメリット〉

- 複数の出入口を同時に管理する必要がある

6 県立美術館の主な課題

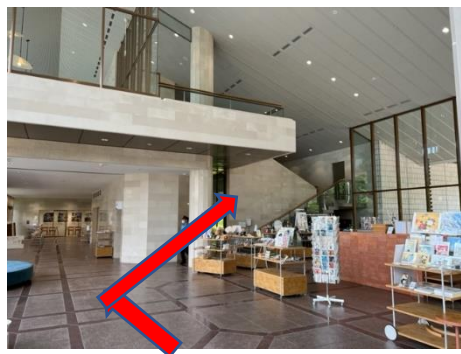
コンセプト1

子どもたちがアートに出会い親しむことができる

(1) ワークショップルーム、キッズスペース

- 創作活動を行うワークショップルームが一般の利用者の動線から離れた場所にあるため、その存在や活動の様子が認知されにくくなっている。
- キッズスペースの存在や無料で利用できることなどの周知が不十分なため、公園を利用する子ども連れなどを積極的に取り込めていない。

ワークショップルーム
入口



検討の方向性

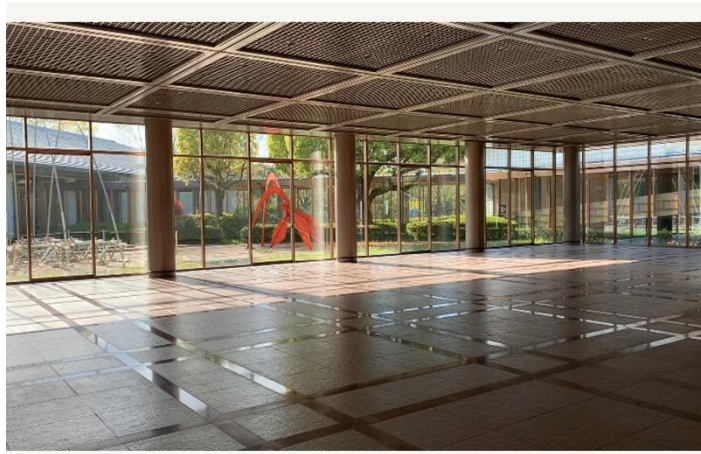
一般の利用者の動線上 または 目に入りやすい場所に移設し、
体験型・参加型の展示空間などと合わせて、**キッズギャラリーを実現**

(2) ギャラリー

コンセプト3
滋賀の文化の息吹を
感じることができる

コンセプト4
誰にとっても居心地が良く
ウェルビーイングを
高めることができる

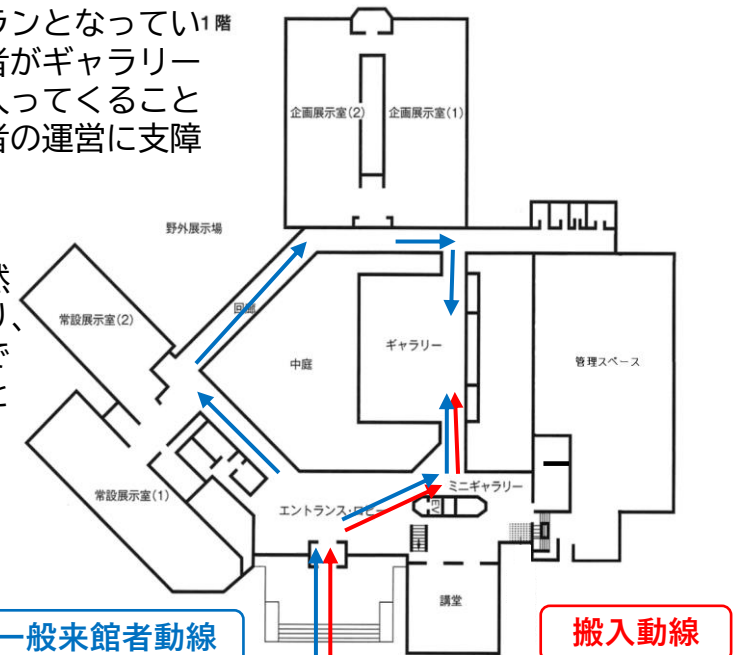
- 施設の構造上、ギャラリー専用の作品搬入出口がなくエントランスを使用するため、作品搬入出作業に制約がある。
- 壁面がガラス張りのため、採光に優れているが、直接外光が作品に当たらないように壁面に可動壁を設置されることが多く、照明設備も貧弱なため利用者のニーズと展示環境に齟齬が生じている。
- 面積の制約により利用団体等の利便性が低い状況にある。



ギャラリー (478㎡)

✕ 回遊式のプランとなっていいため、来場者がギャラリーに2方向から入ってくることとなり、利用者の運営に支障が生じている。

✕ 展示作品によっては自然光を遮る処理が必要となり、その結果、実質的に使用できる面積が小さくなるとともに、暗くなってしまう。



✕ ギャラリーの搬入動線が一般来館者動線と重複

検討の方向性

敷地内移設し展示環境を改善
ギャラリー用の搬入出口の確保

(3)展示室

コンセプト1

子どもたちがアートに出会い親しむことができる

コンセプト2

コレクションを通して多様性を深く考えることができる

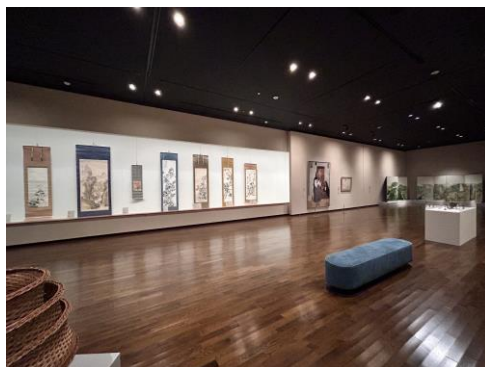
コンセプト3

滋賀の文化の息吹を感じることができる

コンセプト4

誰にとっても居心地がよくウェルビーイングを高めることができる

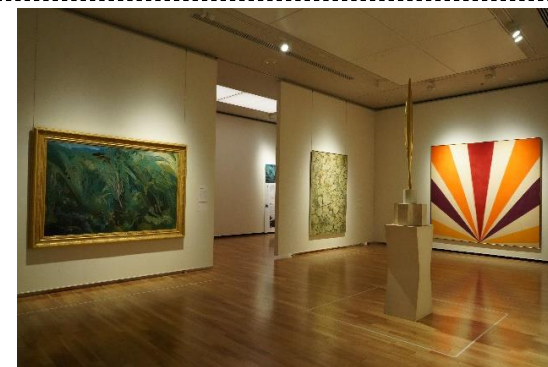
- 滋賀にゆかりの作品や、美術史的に意義のある作品、表現の多様性を感じることのできる作品など、様々な分野の作品を多数収蔵しているが、複数の分野で同じ展示室を使用しているため、展示作品数や展示方法等に制約が生じ、十分な鑑賞機会や満足感を提供できていない。
- 展示面積や天井高などの制約により、他館連携企画や様々な展示手法への対応ができないケースが発生している。
- 開館当時から面積は変わらず、他の都道府県立美術館との比較 37位



展示室1 (509㎡)



展示室2 (360㎡)



展示室3 (896㎡)

通常の運用

「日本美術院を中心とした近代日本画」
「滋賀県ゆかりの美術・工芸等」

「戦後のアメリカと日本を中心とする現代美術」
「アール・ブリュット」
「芸術文化の多様性を確認できるような作品」

企画展示

- ✕ 展示面積等の制約により、収集方針の柱に掲げている作品をいつでも鑑賞できる状況にない
- ✕ 天井高が4mしかないため、大型作品を展示すると窮屈に見えてしまう。
- ✕ 展示作品数を確保するため、可動壁を立てて壁長を確保しているが、手狭な空間になるとともに、故に看視のコストがかかってしまう（大きなワンルームであれば人的コストが削減できる）。

検討の方向性

- コレクションをしっかりと鑑賞できる展示空間を実現するため
- 他館連携企画や様々な展示手法に対応できるようにするため

展示室を新設

(4)収蔵庫

コンセプト2

コレクションを
通して多様性を
深く考える
ことができる

コンセプト3

滋賀の文化の息吹を
感じることができる

- 令和5年度に日本財団から550件の作品を受贈したほか、個人や企業からの寄贈が増えていることなどにより、すでに収容力が限界に近い状況であり、今後の購入や受贈等を円滑に進めるための拡充が必要。
- 開館当時から面積は変わらず、他の都道府県立美術館との比較 33位



収蔵庫1 (427㎡)



収蔵庫3 (240㎡)



収蔵庫2 (182㎡)

✕ いずれの収蔵庫も
棚だけでは収納ができず
床置きで対応しており
収容力は限界に近い

検討の方向性

県民共有の資産である作品を今後も受け入れ、
後世に引き継ぐために、

収蔵庫の増設が必要

令和3年度末の 作品収集状況 (件数)	
部門	作品数
日本画・郷土	1,152
現代美術	524
アール・ブリュット 関連	158
計	1,834



令和6年12月現在の 作品収集状況 (件数)	
部門	作品数
日本画・郷土	1,291
現代美術	567
アール・ブリュット 関連	731
計	2,589



令和5年度に日本財団より受贈した作品のうち約450件を展示

(5)既存施設の老朽化

- 竣工以後、40年が経過し、喫緊の老朽改修等を行っているが、抜本的な施設改修や設備更新が必要な状況にある。



空調設備の老朽化対策(空調機、配管、冷温水発生器等)

雨水の侵入(エントランス)および逆流対策(地下の雨水排水管逆流)

屋内外照明設備LED化

利用者エレベーター改修

自動ドア等更新

回廊等結露対策 など



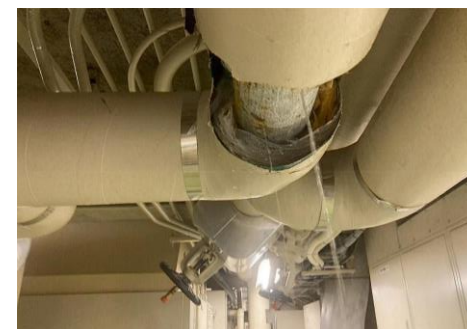
雨水が染み出した壁面



染み出した雨水が流れ込むエントランス



雨水侵入のためビニールで養生した回廊と外壁



空調設備の配管が錆により欠損し水漏れが発生

検討の方向性

長期にわたり安定的な運営を行うため
既存施設の改修

7 計画の構成、掲載項目案

第1章 滋賀県立美術館の目指す姿

第2章 滋賀県立美術館に求められる機能

第3章 施設整備計画

施設整備の基本方針、既存館の改修内容、諸室等の整備内容
公園と一体となった整備内容、立地・施設の現状および課題 等

第4章 事業推進計画

整備・運営の手法、概算費用、外部資金調達、整備スケジュール 等

第5章 運営の基本方針

第6章 計画策定の背景・経緯

(参考) 計画策定スケジュール

- 令和6年5月 検討の開始（調査研究・対話等）
- 令和7年3月 常任委員会報告（骨子案）
- 令和7年4月～ 具体的な整備内容・手法等の調査検討
子どもや利用者・県民等との対話
- 令和7年12月 常任委員会報告（素案）
- 令和8年3月 常任委員会報告（案） 策定・公表

(参考) 美術館運営状況 (令和6年12月末現在)

■利用者数

- 展覧会観覧者数 R6年度 延べ53,690人 (令和6年12月まで)
- 観覧者のうち中学生以下の割合は休館前より大きく増加 (3.8%→11.9%)
- 令和5年12月21日～令和6年4月19日 施設改修工事 (長寿命化工事) のため休館

	展覧会観覧者数						教育・交流事業		利用者数計 (a)+(b)+(c) (※1)	来館者数 (※1)	県美メンバーズ 会員数 (※2)
年度	常設展 (a)	企画展 (b)	計 (a)+(b)	開催日数	1日平均	うち中学生 以下	計 (c)	うちギャラリー入 場者数			
H28年度実績	24,061	36,821	60,882	273	223	3.8%	49,328	34,884	110,210	—	310
R3年度 (R3.6.27～R4.3.31)	22,475	29,605	52,080	183	285	9.7%	4,109	268	56,189	58,776	1,144
R4年度 (R4.4.1～R5.3.31)	36,404	34,119	70,523	296	238	9.4%	16,343	10,632	86,866	62,049	1,044
R5年度 (R5.4.1～R6.3.31)	26,908	23,294	50,202	213	236	12.2%	21,066	14,509	71,268	47,569	1,011
R6年度 (R6.4.1～R6.12.31)	27,237	26,453	53,690	197	272	11.9%	35,372	16,327	89,062	51,049	682
R7年度目標	40,000	60,000	100,000	—	—	—	60,000	—	160,000	—	—

※1 利用者数：展覧会観覧者数と教育・交流事業の参加者数の合計、来館者数：美術館入口で計測した人数

※2 H28年度は旧近代美術館友の会員数

■アンケート結果

※H28年度は「つながる美・引き継ぐ心」展の際のアンケート結果

- 来館満足度が向上 (大変良かった・良かった 77.9%→95.4%)

R7年度目標 90%以上

美術館の印象

	大変良 かった	良かった	普通	あまり良 くない	良くない・ その他
H28	33.8%	44.1%	10.3%	0.0%	11.7%
R4	43.9%	45.9%	6.4%	2.5%	1.2%
R5	52.2%	39.1%	7.3%	0.8%	0.7%
R6	68.6%	26.8%	4.0%	0.3%	0.3%

居住地

	県内	県外
H28	57.2%	42.6%
R4	46.9%	53.1%
R5	55.4%	44.6%
R6	43.7%	56.3%

■ギャラリー・ポップアップギャラリー利用

ギャラリー・PUG利用率 (R6.4.23～R7.3.30)

	ギャラリー	ポップアップ ギャラリー
使用可能週数	43	43
利用週数	33	22
稼働率	76.7%	51.2%